6-3　その他の注意

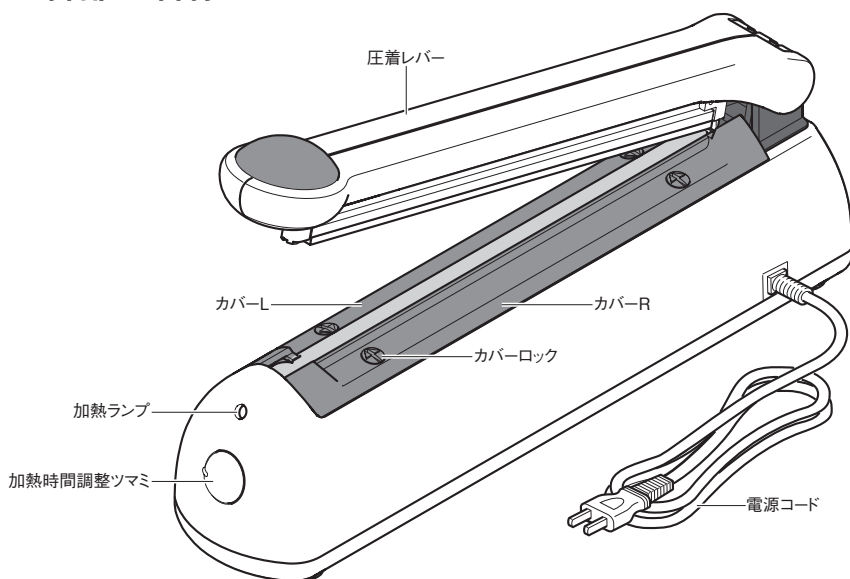
● 量産前には充分なシールテストを行ってください

フィルムの種類により必要な加熱、冷却が変わってきますので、はじめにテストを行い最適な条件を見つけ出してからご使用ください。特に密封性を高くする場合は、充分にシールテストを行ってください。

● UP-200 はインパルス方式のシーラーです

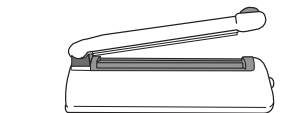
電源プラグをコンセントに差し込んで時間が経過してもシール部が熱くならないのは故障ではありません。

UP-200 はインパルス方式のヒートシーラーですので電源プラグをコンセントに差し込んだだけではシール部は熱くなりません。加熱工程の時だけ（レバーを押し下げてマイクロスイッチが ON になった時だけ）瞬間的に通電し加熱されるからです。但し、長時間の連続使用で、シール部が蓄熱して熱くなる場合があります。

7　各部の名称

8　正しい使い方

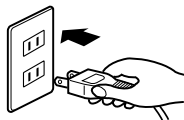
製品を使用される時は以下の『正しい使い方』をよくお読みいただき、お使いください。
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

8-1　本体の設置

製品本体を水平な面を持つ適切な作業台の上に設置してください。

⚠ 注意　UP-200は機械質量が軽いので作業台から少しの力で落下する危険性があります。作業台の端に設置する場合は、電源コードなどを引っかけて製品を落とさないように注意してください。

8-2　電源コードの接続

電源コードの差し込みプラグを「1　仕様」に記載している電圧・電力が確保できるコンセントに確実に根元まで差し込んでください。

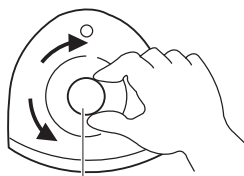
⚠ 警告　規定の容量に合わない場合、火災などの危険があります。

8-3　タイマーでシール条件を設定する

タイマーで加熱時間を設定します。袋（フィルム）の材質、厚さなどにより設定値は変わりますので、フィルムを変えられた時はその都度、設定してください。

加熱時間調整ツマミ

■ 加熱時間の設定

加熱時間調整ツマミを回して設定します。目盛を大きくすると加熱時間が長くなります。
（約 0.1 ～ 2.1 秒の範囲）
使用されるフィルム（袋）の材質により加熱時間は異なります。
目盛りの小さい方からシール状態を確認して、シールができる最小の目盛りに設定してください。作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

⚠ 警告　加熱目盛を大きくして“正しい使い方”の「8-5 冷却時間をとる」で説明する冷却時間をとらないで連続使用すると、火災などの危険があります。

8-4 袋をセットし、シールする

シール部に袋をのせ、圧着レバーを押し下げます。押し下げている途中でマイクロスイッチがONになり、加熱ランプが点灯します。

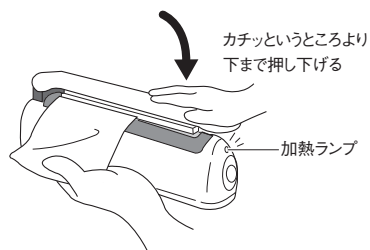
【圧着レバーを押し下げるときの注意点】
圧着レバーを押し下げると、マイクロスイッチがONになりカチッと音がします。マイクロスイッチがONになる位置よりもさらに下のレバーが止まる位置まで少し強く押し下げてください。

注！ マイクロスイッチがONになる位置でレバーを止めた場合、手前側（加熱ランプ側）の圧力が弱くなるためシールがきちんと出来なかったり、シール強度が弱くなったりする場合があります。

注！ レバーが止まる位置よりも無理やり強く押し下げると、圧着レバーの耐久性が落ち故障の原因となります。無理に強く押し込んでも滅菌バッグのシール強度は上がりません。

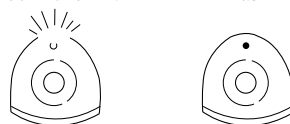
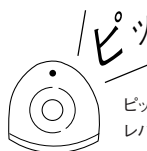
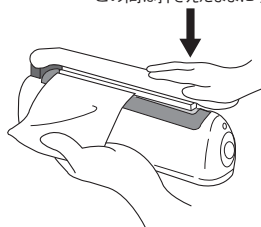
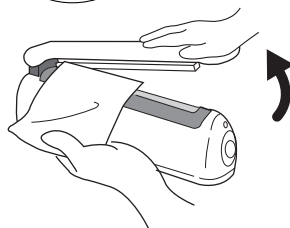
⚠注意 ヒーター部に内容物がこないように袋をセットしてください。圧着レバーで内容物を挟んでしまった場合、ヒーター等が破損してしまう恐れがあります。

注！ 滅菌バッグをシールする場合、フィルム側を上にしてください。

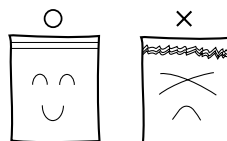
注！ この時、袋がピンと張られた状態でないとシール線の上にシワができますので注意してください。

8-5　冷却時間をとる

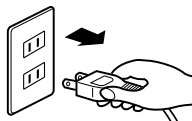
加熱が終了すると加熱ランプが消えます。
加熱ランプが消えた後に２～３秒間、圧着レバーを押さえる力を緩めずに押さえたままの状態を保つことでフィルムを冷却して固めます。
インパルス式のシーラーではフィルムに加熱後、フィルムを挟み込んだまま、フレーム、圧着レバーから放熱させ、フィルムを固める時間が必要です。

加熱ランプが消えて、約３～４秒後に冷却時間終了の合図音がピッと鳴るまで、圧着レバーを押さえる力を緩めずに押さえたままにしてください。合図音が鳴ってから、圧着レバーを上げてください。

⚠ 注意　充分な冷却時間をとらないと、シール状態が悪くなり、部品の消耗を早めます。特に密封性を高くするときは充分な冷却時間をとってください。

8-6　シールのできあがり

加熱・冷却終了後、圧着レバーを上げれば、シール完了です。うまくシールができていない場合は再度、加熱・冷却・加圧力の設定をやり直してください。

MEMO　UP-200 の加圧力は、手で圧着レバーを押さえる力の強弱で調整します。

8-7　作業終了後の点検

作業を終了する時や長時間使用されない時は電源プラグをコンセントから抜いてください。
作業が終了したら、ヒーターや、ガラステープなどの消耗部品に汚れや破損がないか点検してください。

汚れがある場合は清掃を行ってください。
破損がある場合は、取扱説明書に記載されている「9 消耗部品の交換方法」をよくお読みいただき、部品の交換を行ってください。